仏教系生命保険会社の生成と破綻について

滋賀大学 経済学部付属リスク研究センター客員研究員
深見　泰孝

問題の所在（1）

● 先行研究では〈友松（昭和8年）、小林（昭和54年）〉

設立理由：

・教団内部の経済的理由

破綻要因：

・宗教上の教えから積極的な営利活動が行えず。

・宗門を利用した募集が前提のため、事業構想が散漫でも許された。

・準備金積立より教団への寄付が優先された。

・・・など

問題の所在（2）

● 問題の所在

・先行研究では、特定の仏教系生保を取り上げて議論したものであり、営業報告書を中心に分析されたものである。

● 目的

・仏教系生保の生成と破綻に至った経過を明らかにすること。

・仏教系生保の果たした役割を明らかにしたい。

仏教系生保の設立とその背景（1）

● 生保会社設立ブーム（明治26年～）

・日清戦後の投資ブームが起きていた。

・三大生保が順調に業績を伸ばしていた。

・保険業は小額の資本で、利益と長期資本を得易いと誤解されていた。

・保険会社を監督規制する法律がなかった。

⇒その結果、小規模資本の生保が次々に設立（表1参照）

仏教系生保の設立とその背景(2)

- 仏教系生保の資本規模(公称資本金レベル)
  (図2参照)
- 支援教団の変化
  複数教団支援⇒特定教団支援へ

仏教系生保の設立理由(1)

- なぜ、仏教系生保が設立されたのか(表3参照)。
  - 複数教団が支援した会社の設立目的
    - 多数の門信徒を抱える仏教教団に着目
    - 各宗の僧侶が直接、間接的に保険募集を支援
    - 従来言われている経済的関係を教団ともっていた会社は半数。半数は、保険契約者に保険金の一部を各寺院へ寄付させていた。

仏教系生保の設立理由(2)

● なぜ、仏教系生保が設立されたのか(表4参照)。

・特定教団が支援した会社の特徴

・外国人の内地雑居解禁をきっかけに、教団が行う慈善事業の資金調達が目的(史料1)。

・真宗信徒生命の成功と教団財政が逼迫し、営利事業の一環として設立された会社もある(表5、史料1参照)。

業界における仏教系生保の位置付け

● 契約高から分析(表6参照)

⇒中位から下位に位置する。

● 事業費率から分析(表7参照)

⇒契約高が同規模の会社と比べても、ほぼすべての会社で事業費率は高く、経営が非効率であったと言わざるを得ない。

業界における仏教系生保の位置付け

● 責任準備金積み立て状況から分析（表8参照）

⇒責任準備金積立率の平均値は、各社とも2%台から1%台

⇒一部例外を除くと一般の生保よりも準備金積立に消極的であったと言える。

⇒設立理由として考えられることは？

従来の説に加えて、①他社との競争を優位に②慈善事業費獲得③真宗信徒生命の成功

仏教系生保の破綻（1）

● 『本邦生命保険業史』から抜き出した破綻理由（表9参照）

⇒以下は、六条生命と日宗生命を分析。

六条生命の破綻（1）

● 六条生命の経営上の特徴

⇒門主が58%の議決権を保有。

⇒門主保有の議決権は石川に委任。

※石川は東本願寺寺務総長、六条生命監理

● 東本願寺の財政

⇒営利事業で借金返済のはずが、悉く失敗。

さらに不正貸付事件で借金は急増（表10参照）。

⇒石川の前任者は財政再建の失敗で辞職

六条生命の破綻（2）

● 会社から東本願寺への資金提供

①預金（60,000円）←営業報告書に記載

②貸付金（6,500円）←営業報告書に未記載

――――――――――――――――――――――――

③不動産架空買収資金（130,000円）

④繰替金（33,000円）

※明治33年末時点の六条生命の総資産：174,374円

東本願寺との関係が処分理由（史料3）

日宗生命の破綻（1）

● 日宗生命の経営の特徴

⇒賛助員に日蓮宗の高僧や同宗寺院の僧侶らが名を連ね、株式の約10%は寺院関係者が保有（表11参照）。

⇒経営者は僧侶ではなく、実業家。

● 日宗生命の業績変化（表12参照）

⇒明治37年まで契約高は伸び悩み

⇒販売対象を門信徒中心から一般にも

日宗生命の破綻（2）

● 日宗火災の経営悪化

・他社より料率を低く設定

・甘い被害査定と早期の保険金支払い

⇒日宗生命は日宗火災の筆頭株主であり、社長は兼務、営業店舗も同一店舗を共同利用。

⇒同一会社との印象を与えたのではないか。

● 明治40年の函館大火による影響

日宗生命の破綻(3)

- 日宗火災の経営悪化⇒日宗生命の契約流出
  ※流出額:3,072,850円(新契約:3,173,000円)(M40年)
- 起死回生を図ったハイリスク投資(図13参照)
- 経営者交替
  ⇒表面上の社長は下郷伝平と売却交渉を行う。
  実質的な社長は鈴木久五郎と売却交渉。
  ⇒新たな経営者「会社荒らし」と言われた須永清
- 日を問わない内部の紛擾

仏教系生保の破綻(2)

- 2社の破綻理由
- 六条生命
  教団の寺務総長兼会社の監事が、会社の資金を東本願寺に提供。
- 日宗生命
  日宗火災の経営悪化以後、日宗生命の経営も厳しく。前社長(実権者)の独断で、問題ある経営者に会社を売却

仏教系生保の破綻(3)

● 仏教系生保の破綻理由(表9参照)

・資産運用の失敗

・業績不振

・関係会社破綻の影響

これらに加えて(六条生命や日宗生命では)

・ 経営者が高僧や著名な門信徒

⇒経営者がまさか御本山を裏切らない

⇒宗教的地位

仏教生保の果たした意義

● 仏教系生保の販売方法

⇒念珠片手に信仰心と報恩心に訴える、保険法話(真宗信徒生命、日宗生命)

※仕組みや思想を普及(明治生命、日本生命)

● 加入者の職業(表14参照)

● 被保険者の保険金額(表15参照)

⇒商業、農業、工業、教導職 に比較的強み

⇒加入者は、若干、低所得層に多い

むすびにかえて

● 以下4点が指摘できるのではないか。

①設立目的

②仏教系生保が短命に終わった理由

③経営者の宗教的地位の影響

④仏教系生保が果たした役割

参考文献

- 朝日生命保険相互会社編『朝日生命百年史』平成2年
- 鉱山懇話会編『日本鉱業名鑑』大正元年
- 小林惟司「明治期の仏教生命保険事業—とくに明教保険株式会社をめぐって—」『生命保険文化研究所所報』第49号、昭和54年
- 阪本豊彦編『日宗生命保険会社の十徳』妙宗倶楽部、明治34年
- 佐藤保久『資本主義と近代生命保険業』千倉書房、平成15年
- 椎名幾三郎「保険と宗教」『生命保険文化研究所所報』14巻、生命保険文化研究所、昭和42年9月
- 設楽久『日本生命保険業史』保険銀行時報大阪局、明治37年
- 商業興信所『日本全国諸会社役員録』
- 生命保険会社協会編『明治大正保険史料』第二巻 第二編、昭和11年
- 生命保険会社協会編『明治大正保険史料』第三巻 第二編、昭和14年
- 田村祐一郎『掛け捨て嫌いの保険思想—文化と保険—』千倉書房、平成18年
- 東京生命社史編纂委員会編『東京生命七十年史』昭和45年
- 東京生命保険相互会社『東京生命百年史』平成7年
- 内閣統計局『日本帝国第十九統計年鑑』明治33年11月
- 日宗生命株式会社『日宗生命保険規則』明治29年
- 日宗生命株式会社『第一回事業報告』明治30年
- 日本生命保険相互会社企画広報部社史編纂室編『日本生命百年史』平成4年
- 深見泰孝「仏教系生命保険会社の生成について—真宗信徒生命を中心に—」『保険学雑誌』第602号、日本保険学会、平成20年9月
- 佛教生命『第1回事業報告書』
- 保険銀行時報社『本邦生命保険業史』昭和8年

- 本願寺史料研究所編『本願寺史』第三巻、浄土真宗本願寺派宗務所、昭和44年
- 松下長重編『東洋成功軌範』中央教育社、明治44年
- 三岡丈夫編『由利公正伝』光融館、大正5年
- 吉田久一『清沢満之』吉川弘文堂、昭和36年
- 立正大学博物館「立正大学博物館 第4回企画展 立正大学のあゆみ」平成19年7月

《史料》

- 「新門主之行為」『井上馨文書』705-31
- 「明治三十六年九月三十日調 五千円以上債務内訳表」『井上馨文書』705-46-二
- 「石川舜台他3名ニ対スル告訴状案」『井上馨文書』705-57
- 「石川舜台ノ経歴」『井上馨文書』705－58

《営業報告書》

- 真宗信徒生命『第五回営業年度諸統計表』
- 日宗生命保険株式会社『第1回事業報告』『第2回報告』『第3回営業報告書』『第4·6·8·9·10·11回報告』
- 日宗火災保険株式会社『第四回事業報告書』

《新聞》

- 「大阪朝日新聞」
- 「京都日出新聞」
- 「宗報」
- 「保険銀行時報」
- 「保険時報」

（表１）資本規模別生保会社設立数

開業年	会社数	公称資本金		
		10万円未満	30万円未満	30万円超
明治22年	2社		1社	1社
明治23年	1社	1社		
明治24年	0社			
明治25年	0社			
明治26年	9社	9社		
明治27年	12社	9社	1社	2社
明治28年	4社	1社	2社	1社
明治29年	5社	1社	4社	
明治30年	3社	2社	1社	

（出典）保険銀行時報社『本邦生命保険業史』昭和８年、（本紀）p.,94、（会社）pp.134-212、生命保険会社協会編『明治大正保険史料』第二巻 第二編、昭和11年、p.,215、商業興信所『日本全国諸会社役員録』各年度版より作成

（表２）仏教系生保の開業時期

会社名	開業年	公称資本金	本社	支援教団
仏教生命保険株式会社	明治27年	50万円	京都市	仏教各派
有隣生命保険株式会社	明治27年	10万円	京都市	仏教各派
明教保険株式会社	明治27年	50万円	東京市	神仏総合
真宗信徒生命保険株式会社	明治28年	50万円	京都市	浄土真宗本願寺派
真宗生命保険株式会社	明治28年	25万円	名古屋市	浄土真宗各派
日宗生命保険株式会社	明治30年	30万円	東京市	日蓮宗
禅徒生命株式会社	明治30年	10万円	東京市	臨済宗円覚寺派
六条生命保険株式会社	明治32年	30万円	京都市	浄土真宗大谷派
共慶生命保険株式会社	明治33年	10万円	東京市	真言宗豊山派
御嶽生存保険合資会社	明治31年	10万円	東京市	御嶽教

（出典）東京生命社史編纂委員会編『東京生命七十年史』昭和45年、p.,26、前掲『明治大正保険史料』第二巻 第二編、p.,980、前掲『日本全国諸会社役員録』明治30年度版より作成

（史料１）『日宗生命保険規則』

当会社は、日蓮宗篤信緇素の発起したるものにして、其目的は本宗信徒相互救済の便を図り、併せて会社純益の内を以て本宗拡張の資に供するに在り・・・興学布教慈善救済の必要なる人皆之を説く。而も其必要の急なる今日より甚しきはなし。見よ。改正条約は外人の移住を促し、戦勝の結果は版図の大を加ふ。実に我国趨勢一転の秋なり。興学布教以て人身綱紀を維持し、以て新化の民を懐柔し慈善救済以て上下和睦の途を図らざるべからず

（史料２）「京都日出新聞」明治32年２月１日

彼の本派本願寺に関係ありと称する起業銀行と真宗信徒生命保険会社との関係の如く、目下大谷派本願寺に関係して創立中なる六条銀行と共に設立せんとせるものにして・・・大谷派本願寺の機関会社と為り、同派の信徒を誘導する目的

(表 3) 複数教団が支援した会社の設立目的など

佛教生命	設立目的	全国に寺院が52,605ヶ寺あり、各寺から平均6人保険に加入すれば、3,000万余の契約が見込めることを背景に、仏教徒のための保険事業の提供。	佛教生命創立目論見書
	教団からの支援	教団からの直接的な支援はないが、社内に勧誘部を設け、そこに高僧や仏教信者を今でいう外務員として雇用し、彼らが保険勧誘を行っていた。	佛教生命創立目論見書，第1回事業報告書
	教団への寄付	寄付規定があったかは不明。ただ、事業報告書の利益処分として興学布教費（2,000円）が計上されており、寄付先は特定できないが、寄付は行われていた。	第1回事業報告書
有隣生命	設立目的	由利公正と恵美龍園が、東本願寺の財政を談じた際、生保会社を起して教団へ経費補助を目論んだことを背景に、京都府知事・中井弘の賛成を得た上で、仏法を守護することを目的として、各教団の高僧を集めて仏法興隆会を組織して、彼らと共同して有隣生命を設立。	由利公正伝 有隣生命保険規則
	教団からの支援	教団からの直接的な支援はないが、相国寺管長荻野独園、東寺管長楠玉諦、妙法院門跡村田寂順、勧修寺門跡寂内舜海、金閣寺長老伊藤貫宗などが仏法興隆会を組織。	由利公正伝
	教団への寄付	会社からの寄付はなく、保険金の1割（保険者の希望で寄付額は増減できる）を信仰している寺院に永代供養料として寄付していた。	有隣生命保険規則
明教生命	設立目的	人生は無常なものであり、若い時から老病、死後の計画をする必要がある。そのため、僧侶、神官、信者のための生命保険、神社、仏閣、殿宇、寺院、堂塔、伽藍に対する火災保険を提供	「明教新誌」 明教保険株式会社目論見書
	教団からの支援	教団からの直接的な支援はないが、森田悟由（永平寺住職）、釈宗演（円覚寺派管長）、渥美契縁（東本願寺執事）、阿川念達（増上寺執事）、山田辨承（知恩院執事）らが協賛していた。	小林（平成元年）
	教団への寄付	利益処分方法は、生命保険収益から生命保険準備金を、火災保険収益から火災保険準備金を積み立てた残額を株主配当金、布教興学元資金、役員賞与金、交際費として処分。各項の配分割合は、株主総会での決議を要すと定款で明記。	明教保険定款
真宗生命	設立目的	宗門からの大きな御恩に報いるため、信徒が金銭的補助を通じて、宗門の発展を図れるよう生命保険事業を展開。	真宗生命保険株式会社創立ノ趣旨
	教団からの支援	真宗大谷派、高田派、誠照寺派、三門徒派、本願寺派の保護協賛を得たと創立趣旨にあるが、本願寺派、大谷派はそれを否定。	真宗生命保険株式会社創立ノ趣旨 「時事新報」「大阪朝日新聞」
	教団への寄付	希望者は保険金の一部を檀那寺に永代経料として、寄付金として寄付が可能。また、保険金の2%を会社が負担して、檀那寺もしくは希望の寺院に永代経料として会社が寄付。	真宗生命保険株式会社保険規則

(出典) 前掲『明治大正保険史料』第二巻 第二編、p.,423、pp.437-443、p.,469、p.,473、pp.626-628、p.,631、佛教生命『第1回事業報告書』、三岡丈夫編『由利公正伝』光融館、大正5年、p.,483、小林惟司「明治期の仏教生命保険事業—とくに明教保険株式会社をめぐって—」『生命保険文化研究所所報』第49号、昭和54年、p.73、「時事新報」明治27年10月16日、「大阪朝日新聞」明治27年10月28日より作成

(表 4) 特定教団が支援した会社の設立目的など

真宗信徒生命	設立目的	教団の財源確保ではあるが、外国人の内地雑居を目前に控えた、教団が実施する慈善事業費獲得。	深見（平成20年）
	教団からの支援	総務からの論達の発布、僧侶による保険募集。	「宗報」第7号付録 『東京生命百年史』
	教団への寄付	純益金の30%を西本願寺慈善事業資金として寄付。	『東京生命七十年史』
日宗生命	設立目的	信徒の相互救済を図ると共に、明治27年の日英通商航海条約改正で認められた外国人の内地雑居に伴い、日蓮宗が行う慈善救済費用の援助。	『日宗生命保険規則』
	教団からの支援	宗務院からの論達の発布、高僧の賛助員就任、僧侶による保険募集。	『日宗生命保険会社の十徳』
	教団への寄付	布教費、興学費、寺院火災補助費用の資金として、株主配当金の10%にあたる額を寄付。また、会社の業績が拡大すれば慈恵病院や貧民学校、その他の慈善救済事業の実施予定も立てられていた。	『第一回事業報告』 『日宗生命保険株式会社保険規則』
六条生命	設立目的	外国人の内地雑居が目前に迫り、一つ目の理由は東本願寺（末寺も含む）の財政整理、もう一つは門信徒の財産扶植を助けることが目的。しかし、世間では西本願寺と真宗信徒生命の如く、東本願寺の機関会社となり、信徒を誘導することが目的。	「宗報」第1号・第6号 「京都日出新聞」
	教団からの支援	東本願寺からの論達の発布、東本願寺の布教使や勅令使を保険募集に同行。	「宗報」第7号付録 「保険時報」第54号
	教団への寄付	毎年保険料の1%を東本願寺へ寄付。保険に加入させた寺院には、保険金額の0.75%を末寺に寄付。のちに最終利益の50%を寄付。	「宗報」第6号・第32号
共慶生命	設立目的	六条生命関東派株主が分派して設立。	『本邦生命保険業史』
	教団からの支援	宗教所からの論達。	『明治大正保険史料』第三巻 第二編
	教団への寄付	―	

(出典) 前掲「仏教生命保険の生成について―真宗信徒生命を中心に―」、前掲『東京生命七十年史』p.,20、東京生命保険相互会社『東京生命百年史』平成7年、p.,27、日宗生命株式会社『日宗生命保険規則』明治29年、阪本豊彦編『日宗生命保険会社の十徳』妙宗倶楽部、明治34年、日宗生命株式会社『第一回事業報告』明治30年、前掲『本邦生命保険業史』(会社) p.,153、生命保険会社協会編『明治大正保険史料』第三巻 第二編、昭和14年、p.,121、「宗報」第1号 明治31年10月23日、第6号 明治32年3月28日、第7号付録 明治32年4月18日、第32号 明治34年3月15日、「京都日出新聞」明治32年2月1日、「保険時報」第54号 明治33年8月5日より作成

(表 5) 真宗信徒生命の契約高の推移

	明治28年	明治29年	明治30年	明治31年	明治32年	明治33年	明治34年
契約高（円）	918,400	3,410,700	5,283,200	8,042,750	10,101,500	12,271,700	13,442,500
前年比	―	371.37%	154.90%	152.23%	125.60%	121.48%	109.54%

(出典) 真宗信徒生命各年度報告より作成

（表 6）契約高の推移　〈明治 27 年～明治 33 年〉（単位：円）

	明治27年	明治28年	明治29年	明治30年	明治31年	明治32年	明治33年
日本生命	8, 732, 070	10, 766, 030	13, 120, 000	16, 826, 840	20, 861, 050	23, 991, 990	27, 523, 110
帝国生命	10, 375, 300	13, 272, 300	16, 686, 300	19, 256, 700	20, 952, 300	22, 689, 800	26, 073, 200
明治生命	8, 958, 900	10, 627, 700	11, 884, 300	12, 921, 300	14, 049, 200	15, 804, 300	18, 041, 200
真宗信徒生命		**918, 400**	**3, 410, 700**	**5, 283, 200**	**8, 042, 750**	**10, 101, 500**	**12, 271, 700**
共済生命	1, 400, 600	3, 792, 700	6, 471, 800	8, 709, 500	10, 434, 200	11, 254, 200	12, 044, 700
有隣生命	**316, 270**	**2, 004, 720**	**5, 117, 380**	**8, 006, 460**	**9, 220, 550**	**10, 692, 290**	**11, 393, 370**
仁寿生命		1, 821, 214	3, 511, 786	5, 783, 345	8, 067, 355	9, 122, 819	10, 488, 124
愛国生命				2, 196, 800	5, 289, 100	8, 058, 800	10, 034, 500
内国生命	1, 444, 840	3, 723, 087	6, 536, 140	9, 454, 561	10, 372, 256	8, 791, 944	8, 748, 840
九州生命		641, 900	1, 901, 100	3, 506, 008	5, 115, 466	6, 254, 899	6, 921, 578
護国生命			919, 900	2, 042, 950	3, 595, 050	4, 906, 950	5, 263, 050
大阪生命	4, 350	597, 400	1, 435, 340	2, 429, 200	3, 775, 700	3, 856, 350	4, 937, 750
海国生命	415, 020	1, 082, 580	1, 767, 890	3, 026, 660	3, 695, 200	5, 336, 110	4, 275, 530
佛教生命	**156, 800**	**371, 200**	**957, 400**	**1, 721, 300**	**2, 597, 800**	**3, 290, 840**	**4, 168, 700**
北陸生命	474, 900	1, 221, 450	2, 125, 700	2, 701, 540	3, 150, 300	3, 501, 200	3, 937, 350
日宗生命				**1, 066, 450**	**2, 664, 250**	**3, 877, 500**	**3, 862, 100**
真宗（朝日）生命		**113, 525**	**1, 002, 425**	**2, 102, 875**	**2, 244, 825**	**1, 692, 875**	**3, 679, 975**
六条生命			**794, 500**	**2, 580, 250**	**3, 840, 050**	**2, 008, 350**	**3, 583, 350**
明教生命	**430, 700**	**1, 862, 900**	**3, 614, 950**	**4, 875, 600**	**4, 707, 100**	**3, 578, 250**	**3, 260, 100**
萬世生命	172, 560	212, 995	278, 014	247, 466	674, 519	2, 158, 190	2, 309, 384
京都生命		173, 460	418, 502	750, 522	1, 003, 558	1, 297, 293	2, 146, 127
名古屋生命	155, 500	240, 200	510, 500	931, 100	1, 374, 200	1, 675, 100	1, 942, 400
第一徴兵保険						511, 100	1, 629, 000
日本生存生命				1, 246, 400	2, 009, 200	2, 087, 900	1, 408, 900
北海生命					604, 550	1, 076, 250	916, 050
日本教育生命			29, 500	253, 700	523, 900	639, 800	869, 850
大日本生命	551, 600	689, 500	979, 250	1, 405, 800	1, 748, 450	955, 800	786, 900
日本共同生命						303, 500	664, 700
禅徒生命				**2, 600**	**211, 600**	**382, 900**	**572, 600**
日本共立生命		—	—	—	858, 617	538, 192	521, 416
山陰生命		228, 450	367, 600	438, 400	469, 450	356, 450	437, 750
共同生命		99, 550	141, 230	200, 860	225, 250	269, 980	258, 580
東北生命						37, 600	216, 350
東洋生命							190, 700

（出典）前掲『本邦生命保険業史』より作成

※六条生命は中央生命と合併しているため、それ以前は中央生命の業績を利用した。

※真宗生命は明治 32 年 6 月に、教団とは無関係の大阪・加島銀行の廣岡久右衛門に支配権が異動する。異動後、社名を朝日生命とし、本社を大阪に移転した。

(表 7) 事業費率の推移 (明治 27 年～33 年)

	明治27年	明治28年	明治29年	明治30年	明治31年	明治32年	明治33年
酒家生命	245.5%	99.9%	80.5%	56.0%	54.7%	63.7%	119.8%
真宗(朝日)生命		221.1%	125.0%	76.4%	46.0%	77.3%	68.7%
六条生命			153.2%	86.6%	69.4%	69.9%	62.4%
明教生命	223.8%	83.3%	57.1%	80.0%	64.3%	70.2%	57.8%
大東生命	104.0%	58.5%	54.9%	49.6%	46.5%	54.6%	57.6%
海国生命	196.3%	61.9%	44.0%	52.9%	43.3%	49.3%	57.5%
京都生命		106.9%	69.1%	61.9%	50.1%	46.6%	55.5%
佛教生命	830.6%	123.2%	89.1%	35.6%	61.2%	36.6%	52.9%
北陸生命	52.1%	34.5%	42.1%	34.0%	38.4%	35.7%	44.7%
九州生命		71.6%	52.9%	39.2%	N/A	44.2%	43.4%
大阪生命	74.5%	55.2%	62.2%	55.2%	61.3%	53.9%	42.7%
名古屋生命	43.2%	34.8%	61.1%	51.6%	55.5%	50.8%	39.7%
有隣生命	N/A	216.1%	69.9%	61.4%	47.6%	40.8%	38.9%
日宗生命				151.0%	29.1%	29.4%	36.8%
仁寿生命		92.1%	39.8%	42.6%	43.2%	29.2%	35.3%
護国生命			133.7%	68.5%	51.2%	53.5%	34.4%
萬世生命	185.8%	120.7%	175.2%	82.1%	82.1%	52.4%	33.2%
真宗信徒生命		138.8%	50.1%	41.6%	41.4%	37.2%	28.9%
共済生命	24.4%	51.7%	39.8%	37.1%	N/A	22.8%	27.3%
明治生命	19.1%	19.8%	19.1%	20.5%	22.6%	24.1%	26.6%
内国生命	84.2%	67.9%	37.6%	41.8%	40.7%	38.5%	25.8%
愛国生命				59.4%	51.9%	48.2%	23.6%
帝国生命	20.0%	17.8%	18.6%	18.3%	20.1%	21.6%	23.3%
日本生命	18.2%	18.3%	20.7%	33.7%	26.7%	21.6%	23.0%

(出典) 前掲『本邦生命保険業史』より作成

(表 8) 責任準備金積立率

	明治27年	明治28年	明治29年	明治30年	明治31年	明治32年	明治33年	平均
明治生命	11.79%	12.10%	12.95%	14.06%	14.83%	14.95%	11.53%	13.17%
日本生命	5.31%	6.09%	6.88%	6.69%	7.08%	8.47%	9.64%	7.17%
帝国生命	4.20%	4.77%	5.50%	6.76%	8.10%	9.38%	9.90%	6.94%
共済生命	4.00%	2.20%	2.75%	3.56%	N/A	6.70%	7.78%	4.50%
内国生命	N/A	N/A	1.11%	1.78%	2.47%	4.31%	5.94%	3.12%
日宗生命				1.37%	3.98%	3.59%	2.98%	2.98%
仁寿生命		N/A	0.66%	2.25%	2.60%	3.87%	4.85%	2.85%
皇国生命					0.40%	1.77%	6.21%	2.79%
酒家生命	0.77%	2.48%	1.00%	2.19%	3.04%	2.81%	4.32%	2.37%
六条生命			1.04%	0.40%	1.87%	4.81%	3.26%	2.28%
北陸生命	0.63%	1.07%	1.50%	1.94%	2.40%	2.87%	4.71%	2.16%
真宗信徒生命		0.43%	1.04%	1.77%	2.20%	2.97%	4.08%	2.08%
大東生命	0.00%	0.24%	0.55%	1.00%	1.69%	5.98%	5.05%	2.07%
明教生命	—	0.43%	0.77%	0.98%	1.06%	2.14%	6.32%	1.95%
九州生命		0.20%	0.82%	1.34%	2.06%	2.74%	3.66%	1.80%
北海生命					0.66%	1.84%	2.44%	1.65%
海国生命	0.00%	0.00%	0.00%	0.56%	1.04%	3.58%	6.14%	1.62%
愛国生命				0.56%	1.18%	1.52%	3.20%	1.62%
護国生命			0.78%	1.04%	1.05%	1.43%	3.04%	1.47%
名古屋生命	1.29%	0.92%	0.59%	0.76%	0.71%	2.18%	3.50%	1.42%
有隣生命	N/A	N/A	0.30%	0.39%	0.97%	1.97%	2.90%	1.31%
京都生命		N/A	0.26%	0.42%	0.32%	3.00%	2.52%	1.30%
萬世生命	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.25%	3.44%	3.64%	1.19%
日本生存生命				0.25%	0.92%	1.12%	2.47%	1.19%
仏教生命	—	—	0.60%	0.54%	0.64%	1.56%	2.59%	1.19%
大阪生命	1.08%	0.09%	0.52%	0.61%	0.66%	1.33%	2.03%	0.90%
真宗(朝日)生命		0.44%	0.40%	0.38%	0.55%	1.41%	2.17%	0.89%

(出典) 前掲『本邦生命保険業史』より作成

（表 9）仏教系生保の消滅理由

会社名	発生時期	解散や支配権の異動に至る要因
佛教生命	明治43年5月	明治33年秋、預金先の近江興業銀行が破綻し、11月に新契約募集停止命令を受ける。その後、一度は整理に成功して新契約募集停止命令は解除されるが、明治37年以降損失が拡大し、任意解散に至る。
有隣生命	明治44年12月	設立の中心人物であった由利公正が高齢になり、職務に耐えられなくなる。その化身となった支配人・松崎松太郎は地位と資金を悪用し、鉱山その他の事業に社金を悪用、それがきっかけとなり、支配権は転々と異動。明治44年には高倉藤平へ支配権が異動。
明教生命	明治39年11月	明治33年末からの日清戦後第二次恐慌によって、社長古畑寅造が経営していた七十九銀行が破綻すると、古畑寅造の所有していた明教生命株は大阪生命・岡部廣に移り、大阪生命と合併する。
真宗信徒生命	昭和9年9月	設立以来、西本願寺の有力門徒が経営し、規模も順調に拡大するが、大阪生命事件に巻き込まれ、西本願寺が同社株式を80％以上保有する。大正3年、大谷家の財産整理のため有力門徒の久原房之助に株式を売却（株式の30％は本山へ寄付）。その後、昭和9年に野村財閥に支配権が異動。
真宗生命	明治32年6月	明治28年の設立以来、社内にはもめごとが相次ぎ、その影響もあって会社の信頼は失墜。心ある株主がこれを憂い、加島銀行頭取・廣岡久右衛門へ支配権を異動させる。後に大同生命となる。
日宗生命	明治42年9月	姉妹会社であった日宗火災破綻の影響を受け、当時、成金として有名であった鈴木久五郎へ会社救済を交渉。これをきっかけとして、鈴木久五郎の手下・須永清が会社に入社。会社内部で須永派と鈴久派のもめごとが続き、解散命令が出される。
禅徒生命	明治38年1月	曹洞宗を背景として設立された会社であったが、明治33年末時点の契約高は57万円余りであった。その後、社長が交代するも業績は一向に挙がらず、明治35年に大阪生命と合併。
六条生命	明治40年4月	明治34年農商務省の検査により、東本願寺に対する貸付金回収を命じられたが一向に進まず、契約高の激減、欠損額の増大を招き、解散に至る。
共慶生命	明治43年5月	共慶生命は六条生命からの分社以後、徒に睡眠状態を続ける。明治36年、手島知徳の入社以来、業績は改善。明治43年、渋沢栄一の娘婿・尾高次郎に支配権が移り、渋沢栄一の協力も得て、業績は改善。後に東洋生命となる。
御嶽生存保険合資	明治34年1月	同社は、その前身会社であった競盛生命の不始末のため、保険募集に苦労し、収入保険料はわずか5千円程度に過ぎなかった。保険業法施行後の検査で、営業停止を命じられ、明治34年には任意解散する。

（出典）前掲『本邦生命保険業史』pp. 140-222、前掲『東京生命七十年史』より作成

（表 10）東本願寺の負債額の推移

年月	負債額	前年比
明治31年1月	453,889円	―
明治32年1月	579,079円	△125,190円
明治34年11月	2,200,082円	△1,621,003円
明治35年5月	2,316,259円	△116,177円

（出典）「宗報」第 10 号付録（明治 35 年 6 月 1 日）より作成

（史料 3）「整理事項」生命保険会社協会編『明治大正保険史料』第二巻 第二編、pp. 77-78

一 大谷派本願寺ニ属スル当座預金総額六萬円ト繰替金三萬三千余円ハ速ニ之ヲ回収シテ、当分ノ内、資本金百萬円以上ノ銀行ヘ預ケ入ルヘキコト

二 本年六月五日取得シタル不動産ハ、速ニ登記ノ手続ヲ履ミ、而シテ時機ヲ見計ヒ之ヲ売却スルコト

三 当座預金ノ内、金額百円ニ満タサル小口ノモノハ此際悉ク整理スルコト

（表 11）寺院関係者の持株比率

	明治30年	明治31年	明治32年	明治33年	明治35年	明治37年	明治38年	明治39年	明治40年
株主数（人）	118	110	101	95	89	81	81	81	72
株数（株）	646	461	378	782	762	737	737	739	671
持株比率	10.77%	7.68%	6.30%	13.03%	12.70%	12.28%	12.28%	12.32%	11.18%

（出所）『日宗生命各年度報告』より作成

(表 12) 日宗生命の業績の推移

	明治31年	明治33年	明治35年	明治37年	明治39年	明治40年	明治41年
年末契約高(円)	2,664,250	3,862,100	4,975,500	5,047,650	10,151,650	10,147,300	8,537,100
純利益(円)	4,543	6,604	7,021	432	408	163	−96,294

(出典)「保険銀行時報」明治 41 年 10 月 25 日、前掲『本邦生命保険業史』より作成

(表 13) 日宗生命の資産運用　(単位：円)

種別	投資先	明治38年	明治39年	明治40年
預金	不明	262,567	299,202	275,941
債券	軍事公債	1,068	1,077	1,002
	整理公債	311	313	292
	第1回国庫債券	2,067	2,230	2,278
	第2回国庫債券	5,600	5,825	5,642
	第3回国庫債券	184	190	185
	第4回国庫債券	1,796		
	第5回国庫債券	3,912		
	五分利公債		16,405	16,405
	煙草公債		1,840	1,794
	大阪市築港公債	3,708	3,940	3,664
	第17回勧業債券	16	34	33
	日本勧業銀行貯蓄債券	68	136	197
	第2回拓殖銀行債券			4,800
株式	北海道鉄道株	6,424	7,656	7,656
	東京鉄道株			336
	横浜電気鉄道株			1,925
	日本工商銀行株	18,000	28,800	
	日宗火災株	19,550	19,847	27,827
	日本電報通信株			625
	日本炭鉱株			9,878
	湯川金山株			28,800

(出典) 日宗生命『第 9 回報告』『第 10 回事業報告書』『第 11 回報告』より作成

（表 14）明治 32 年時点の職業別被保険者数

明治32年（25社）			明治32年（真宗信徒）		
職業	人数	割合	職業	人数	割合
官吏	14,598	2.51%	官吏	657	1.48%
陸軍軍人	4,210	0.72%	陸軍軍人	82	0.18%
海軍軍人	1,678	0.29%	海軍軍人	47	0.11%
裁判官及検察官	484	0.08%	裁判官及検察官	37	0.08%
警察官及司獄官	4,096	0.70%	警察官及司獄官	185	0.42%
公吏	4,974	0.85%	公吏	207	0.47%
議員	327	0.06%	議員	19	0.04%
教導職	8,101	1.39%	教導職	1,126	2.53%
家扶	0	0.00%	家扶	0	0.00%
教員	15,441	2.65%	教員	711	1.60%
学士	0	0.00%	学士	0	0.00%
学生	2,673	0.46%	学生	256	0.58%
医者	12,831	2.20%	医者	592	1.33%
薬剤師	786	0.13%	薬剤師	32	0.07%
弁護士及公証人	1,133	0.19%	弁護士及公証人	38	0.09%
海員	3,694	0.63%	海員	254	0.57%
漁業者	4,470	0.77%	漁業者	531	1.19%
技術員	2,152	0.37%	技術員	77	0.17%
機関士	457	0.08%	機関士	29	0.07%
新聞記者及著述者	522	0.09%	新聞記者及著述者	26	0.06%
編纂業	0	0.00%	編纂業	0	0.00%
銀行及会社員	18,029	3.09%	銀行及会社員	859	1.93%
農業	110,541	18.98%	農業	9,978	22.41%
工業	52,846	9.07%	工業	4,661	10.47%
商業	181,662	31.19%	商業	17,711	39.79%
産婆及看病人	606	0.10%	産婆及看病人	56	0.13%
傭人	4,472	0.77%	傭人	0	0.00%
筆耕	0	0.00%	筆耕	0	0.00%
芸妓	0	0.00%	芸人	261	0.59%
雑業	55,238	9.48%	雑業	2,618	5.88%
無職	76,501	13.13%	無職	3,443	7.73%
その他	0	0.00%	その他※	22	0.05%
合計	582,522	100.00%	合計	44,515	100.00%

（出典）内閣統計局『日本帝国第十九統計年鑑』明治３３年１１月、真宗信徒生命『第五回営業年度諸統計表』より作成

（表 15）保険金額別被保険者数

明治32年（25社）			明治32年（真宗信徒）		明治33年（日宗）	
金額	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1～100円	306,182	52.83%	25,492	56.55%	7,656	58.90%
101～200円	118,177	20.39%	8,915	19.78%	2,789	21.46%
201～300円	57,132	9.86%	4,247	9.42%	1,137	8.75%
301～500円	60,710	10.47%	4,510	10.01%	1,076	8.28%
501～1000円	25,530	4.40%	1,645	3.65%	301	2.32%
1001～2000円	3,615	0.62%	192	0.43%	28	0.22%
2001～5000円	1,368	0.24%	76	0.17%	12	0.09%
5001円～	71	0.01%	0	0.00%	0	0.00%
その他	6,801	1.17%	0	0.00%	0	0.00%
合計	579,586	100.00%	45,077	100.00%	12,999	100.00%

（出典）前掲『日本帝国第十九統計年鑑』、真宗信徒生命『第五回営業年度諸統計表』、日宗生命『第四回報告』より作成